

2009年3月10日

川崎市立井田病院〇〇長

A 様

たばこ問題情報センター代表
『禁煙ジャーナル』編集長
渡辺文学

富山県医学会での貴氏の発言について公開質問状

さる3月7日(土)、富山県医師会主催の富山県医学会において貴氏は「安全保障としての医療と介護、一医療崩壊、介護危機から日本を救うために」と題して講演されました。

この講演会に参加されたB医師は、以前より貴氏の活動に敬意を抱いており、楽しみに講演会に出席されたそうです。

講演は、以前からのA氏の主張に沿ったもので、とくに新しい内容ではありませんでしたが、相変わらずの鋭い指摘で、参加者も納得の内容とのことでした。

ところが、講演の後の質疑応答でB氏が、「神奈川県は禁煙条例や、レセプトオンライン請求義務化反対訴訟などいろいろ頑張っていてすごいなと思っています」と述べたところ、A氏は、「そうですかねー。私は禁煙条例については大政翼賛会的でいやですね。個人の自由は認めるべきです」、「目立ちたがりの政治家っているもんです。こんなことを言ったら叱られるかもしれませんが、私は最後の一人になるまで抵抗しようと思っています」、「だいたい禁煙が進むと医療費がかさむことは明らかです。どんどん吸って早く死んでもらった方がいいんです」と、とんでもない答えが返ってきたとのことでした。

貴氏は講演の中で、「政府の諮問委員会に入っている偉い先生方は視野がせまい」と言って批判されたそうですが、ご自身がニコチン中毒特有の視野狭窄に陥っていることに気づいていないのでは、とB氏は指摘されています。また、神奈川県でいろいろな方が「受動喫煙防止条例」を作ることに努力しているときに、県内にこういう医師がいて、しかも人前で堂々と喫煙推進の論を披露するなんて寂しすぎます、とB氏は嘆いていました。

たばこ問題情報センターでは、月刊専門紙『禁煙ジャーナル』紙面で昨年からの「神奈川県受動喫煙防止条例」について、その成立を願ってたびたび報道して参りました。

また、日本医師会をはじめ、神奈川県医師会、予防医学協会、禁煙・分煙推進神奈川会議など県内の保健医療団体はもとより、日本禁煙学会、禁煙医師連盟、全国禁煙推進協議会などタバコ問題の解決を願う数多くの団体が松沢成文知事と懇談し、また講演会・シンポジウムなどに知事を招き、この条例の制定に向けての意欲と情熱を十分に認識してきたところです。

松沢氏は先の選挙の際、マニフェストの第一番目にこの「受動喫煙防止」を掲げ、当選後この公約の実現に向けて懸命の努力を重ねているところであり、A氏の「目立ちたがりの政治家」という批判は、全く的外れの恣意的な発言です。

また貴氏は「大政翼賛会」という言葉の中身を理解されていないようです。これは、1940年、近衛内閣のもとで結成された反対派を全く認めない国民統制組織であり、今回の神奈川条例は、多数派の自民党が「党議拘束」をかけてまで反対している条例で、この言葉は貴氏の「無知・無理解」ぶりを如実に表している妄言です。さらに、「タバコを吸って早く死んでもらった方がいいんです」に至っては、もはやこれが人の命と健康を守る立場の医師の発言とは思えない暴論です。

この件に関しまして、C院長にも「質問状」を送らせていただきましたが、A様の発言の真意をお聞かせ下さるよう、3月19日までのご回答をよろしくお願い申し上げます。

■たばこ問題情報センター代表 渡辺文学

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-1-4 九段セントラルビル 203

E-mail: info1@tbcopic.org